

第62回例会

日本語教育における「育てるカウンセリング」 を用いた心の支援とは

話題提供：高久 孝幸さん（帝京平成大学附属日本語学校）

■ 日時 ■

2019年6月29日（土）16:00～18:00

■ 会場 ■

早稲田大学早稲田キャンパス 22号館 502教室

※申し込み不要。当日、直接会場にお越しください。

日本語教師である私は、ここ数年、毎日のように学習者から様々な相談を受けてきた。学習者の発達課題は、「学業」、「人生設計」、「人間関係」、「自立」、「健康」等、多種多様である。それらの発達課題に直面した学習者は躓き、怠学、不登校、ストレス、非行、ときには自傷行為にまで走ってしまうこともある。そのような光景を目の当たりにしているうちに、私は教師である自分にできることは何かと、もどかしさを感じ、葛藤するようになった。そのような時期に「育てるカウンセリング」に出会った。「育てるカウンセリング」とは、教師と学習者の心と心のふれあいをおし、学習者が自らの発達課題を乗り越えていけるように、成長を促すという考え方である。「育てるカウンセリング」においては、学習者が他者との関わり合いを深めたうえで、他者とのつながりの中で自己を見つめ直していくことが重視される。また、教師には学習者が自らの行動を変容できるような気づきを与え、学習者の自己実現を支援することが求められる。

私は「育てるカウンセリング」を日本語教育実践に取り入れるための方法として、構成的グループエンカウンター（Structured Group Encounter：略称SGE）の一形態である「内観エクササイズ」（振り返り作文）を自身の教育実践に導入した。「内観エクササイズ」は、ある過去の出来事を思い出し、自己を見つめ直し、固定された考えを取り除いたうえで、認知の変容を起こし、行動を変えていくという流れで進められる。こうした能動性のある活動をおし、学習者は自身で外界との和解を成立させる。その結果、学習者は徐々に行動変容を起こし、自分で発達課題を乗り越え、問題を解決していけるようになる。

以上のような私の問題意識と経験にもとづき、本例会では、日本語教師は日本語教育の枠組みの中で学習者の心の発達援助をどのようにデザインするか、より具体的には、どのように学習者の自己実現欲求を満たすための支援を行うかに関し、皆様と議論できればと思う。

お問い合わせ

project@alce.jp（言語文化教育研究学会 企画委員会）

